

第80回ITER機構職員募集説明会でのQ & A

1. 日時・場所

平成27年3月20日(金)～22日(日)

茨城大学 日立キャンパス (日本原子力学会 春の年会 展示会会場)

2. 来訪者: 30名程度

3. 説明概要:

日本原子力学会秋の大会 企業展示会場において、来訪者に核融合、ITERなどに関する資料を配布し、ITER計画について説明及びITER機構職員募集を行った。

(ITER統合支援グループ 大原、ITER計画管理グループ 齋藤)

4. 主なQ & A

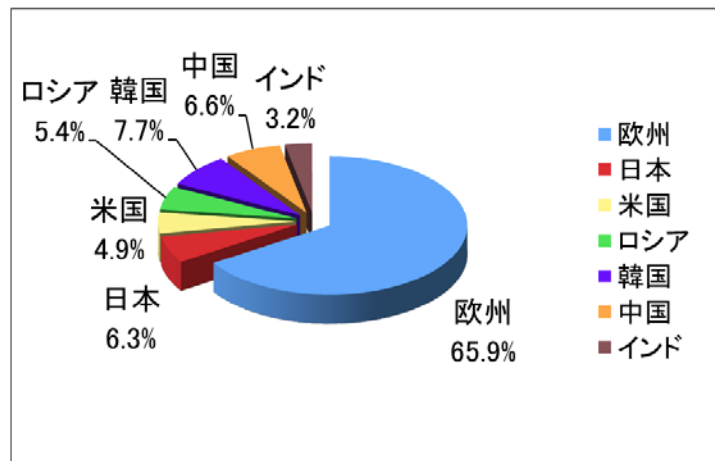
Q: 那珂核融合研究所ではどんなことを実施していますか。

A: 那珂核融合研究所では、主に「ITERの研究開発」と「核融合プラズマの研究開発(JT-60SA)」を実施しています。ITER研究開発では、ITER計画における日本の国内機関として、ITER機器の研究開発・調達や人的貢献の窓口として役割を果たしています。また、プラズマの研究開発では、試験装置 JT-60U を用いた研究を実施し(2012年に解体完了)、現在は超伝導化した JT-60SA の組立(2019年運転開始予定)を進めています。

Q: 現在の ITER 機構職員数と、日本人の人数はどのくらいですか。

A: 2015年2月末現在で、合計 607名、そのうち日本人は 28名です。

	専門職員	支援職員	合計
欧州	230	191	421
日本	22	6	28
米国	17	15	32
ロシア	19	10	29
韓国	27	6	33
中国	23	24	47
インド	11	6	17
合計	349	258	607



Q: ITER と JT-60SA の関係は？

A: JT-60SA の目的は①ITER 技術目標達成のための支援研究、②原型炉に向けた ITER 補完研究、③人材育成の 3 つです。ITER と同じ形で高い性能を持つプラズマ運転を行い、その成果の ITER へ反映や、ITER 計画をはじめとする核融合研究を主導する研究者・技術者の育成を行います。

Q: ITER 機構職員募集は定期的に行われるのですか？

A: ITER 機構職員の募集は、不定期に行われます。これは他の国際機関と同じです。およその目安として、1か月に1~2回の割合で募集があります。募集の期間は3週間~1か月程度です。

Q: 日本の機器の分担について教えてください。

A: 日本が分担する調達機器は、多岐にわたります。中心ソレノイド、トロイダル磁場コイル、トリチウムプラント設備、ブランケット遠隔保守機器、ダイバータ、高周波加熱装置、中性粒子加熱装置、計測装置などです。

Q: ITER、及び JT-60SA はいつ完成するのですか？また、現在どこまで建設が進んでいますか？

A: ITER は、2022 年に最初のプラズマを点火することを目指して、装置建設が進んでいます。現時点で完成しているのは、ポロイダル磁場 (PF) コイル建屋と本部ビルです。トカマク建屋、組立建屋、クライオスタット組立建屋については現在建設中で、特にトカマク建屋については、基礎工事が完了しています。(※写真参照)

JT-60SA は 2019 年に組立完了予定で、現在は真空容器の組立を実施しています。



トカマク複合建屋の工事(2015年3月)

以上

日本原子力学会 春の年会 展示会場の様子

